



結城地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催しました

1月17日（火）、当普及センターにおいて「令和4年度結城地域農村青少年プロジェクト実績発表会」を開催しました。結城4Hクラブ員やアグリ講座の受講生、関係機関など20名が参加し、農業経営の課題解決に取り組むプロジェクト活動と、農業経営に関する意見や展望が発表されました。

プロジェクト発表の部では、結城市農村青少年クラブの山田昌輝さんが「ハクサイ黄化病発症土壌における耐病性品種の検討」と題し、重要病害である黄化病の発生状況と、耐病性を持つ2品種の試験栽培結果について発表しました。試験の結果は「あきめき」が収量性と収益性に優れ、長年黄化病に悩まされていた山田さんは、今後の経営において「あきめき」を導入する予定です。

意見発表の部では、常総市の倉田仁さんが「スマート農機を活用した新たな水稻作経営への挑戦」と題して、スマート農機導入による経営改善効果について発表しました。

発表会に続き、積極的にICT機器を利用している古谷農業経営士より、圃場管理システムと収量コンバイン、乾燥機の連携方法についてご講演いただきました。



プロジェクト発表



意見発表



講演

プロジェクトの内容

「ハクサイ黄化病発症土壌における耐病性品種の検討」

ハクサイの重要病害である黄化病耐病性品種の特性について発芽率・生育・品質・収益性を調べました。

試験品種

「あきめき」「ことぶき」

結果

- ・黄化病は2品種とも発病してしまいました。
- ・細かく調査することで、カタログでは分からない品種の違いが分かりました。



実際に栽培して品種の特性を知ることが重要であることが改めて確認できました

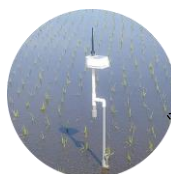
意見発表の内容

「スマート農機を活用した新たな水稻作経営への挑戦」



水稻ドローン追肥

飼料用米の適期追肥ができ、収量・品質が向上しました。



自動水管理システム

経費は上がりましたが、水回りの回数が削減できました。

八千代町でブドウ栽培が本格スタート！ ほ場見回り会を開催しました

2月2日（木）、八千代町でブドウ生産ほ場の見回り会を開催しました。

八千代町では、地域のブドウ栽培導入を積極的に推進しており、八千代町産業経済課と普及センターで、栽培を始めて間もない生産者や栽培予定の生産者4名のほ場を巡回しました。今回は、農業総合センターの果樹担当専門技術指導員を招き、若木管理や剪定方法の支援を行いました。

ブドウの短梢栽培では、定植から3年程度と短期間で収穫開始できますが、早期に安定した収量・品質を得るには、適正な若木の管理が重要です。参加者はお互いの設備や管理方法について、熱心に情報交換していました。

八千代町では、地域ブドウ生産振興に向け、ブドウ導入者の安定栽培のための定期的な見回り会や、研究会組織の立ち上げを予定しています。普及センターは、町と連携して地域のブドウ栽培を支援していきます。



↑若木の育成方法
について情報交換

JA北つくば結城園芸部会のナス栽培講習会が開催されました

2月7日（火）、JA北つくば結城南支店大会議室で、結城園芸部会茄子部の栽培講習会が開催されました。講習会では種苗メーカーによる品種特性に合わせた栽培管理や、資材メーカーによる施肥設計の方法や資材の説明がありました。

普及センターからは、以下の病害虫対策について説明しました。

○病気

- ・灰色かび病：満開後のしぼんだ花から発生しやすい。しぼんだ花は随時除去する。
- ・褐色腐敗病：降雨が多いと多発する。高畝等の排水対策と敷き草やマルチによる跳ね上がりを防止する。

○害虫

- ・アザミウマ類：花の中に入ったヒラズハナアザミウマは農薬がかかりづらいため、丁寧に農薬を散布する。
- ・ダニ類：増殖のスピードが早い。定期的な農薬散布で抑えられない場合は、散布間隔を短くして追加の薬剤散布をする。

発生しやすい病害虫は栽培期間中の天候によって左右されます。今後はJAや各メーカーと連携した圃場巡回を行い、栽培状況に合わせた病害虫対策の情報提供をすることで収量・品質向上を支援していきます。



講習会の様子